

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

☆最初のISS構成要素打上げから1894日経過しました

☆第8次長期滞在クルーのISS滞在は99日経過しました

☆ISS動向

第8次長期滞在クルーのマイケル・フォールとアレクサンダー・カレリ両宇宙飛行士は、新たに到着するプログレス補給船(13P)のために、現在ズヴェズダ後方に結合しているプログレス補給船(12P)に不要品を運び込むなど12P廃棄の準備をしています。12Pは日本時間1月28日午後5時36分にISSから分離し、その後大気圏に突入して燃え尽きる予定です。

他の活動として、カレリ宇宙飛行士はロシアの酸素発生装置のテレメトリユニットを交換しました。また、フォール宇宙飛行士は毎週の食事アンケートを行いました。

なお、空気漏れの件は、「デスティニー」(米国実験棟)の窓に取り付けられていた真空ホース以外発生箇所は無く、現在ISS内部の気圧は安定しています。ホースの交換品はプログレス補給船(13P)で打ち上げられる予定です。

☆プログレス補給船(13P)打上げ準備進む

プログレス補給船(13P)は新鮮な食べ物、衣類、予備の部品などを搭載し、日本時間1月29日午後8時58分にカザフスタンのバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、同1月31日午後10時18分にISSにドッキングする予定です。

また、このプログレス補給船(13P)には、JAXAの高品質タンパク質結晶生成プロジェクトの第3回宇宙実験用のタンパク質試料が搭載されます。



第8次長期滞在クルー



© Energia

打上げ準備が進むプログレス補給船(13P)

“トピックス”

☆オポチュニティ火星着陸

日本時間1月25日午後2時過ぎ、火星探査機スピリットの双子の探査機・オポチュニティが火星のメリディアニ平原への着陸に無事成功しました。管制室には、カリフォルニア州のアーノルド・シュワルツェネッガー知事も訪れ、技術者たちと握手をしながら成功を祝福していました。

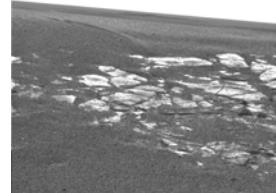
なお、交信が途絶えていたスピリットとの交信も回復しました。フライトコンピュータに使われているフラッシュメモリをコントロールしているソフトウェアに問題が生じていたようですが、現在は安定した状態になっています。



着陸の成功に沸く、NASAジェット推進研究所(JPL)の管制室の様子



オポチュニティから届いた最初のカラー画像



オポチュニティ着陸地点から南西の景観

☆野口宇宙飛行士インタビュー

NASAはコロンビア号事故後の再開フライト第1号となるSTS-114の搭乗員に対し、インタビューを行いました。以下に野口宇宙飛行士のコメントを一部紹介します。

「この1年は、NASAオフィスの全員にとって、いや全エージェンシーにとってたいへんつらい1年だったでしょう。突然、友人であるSTS-107クルー、そして機体を失ったのだから。しかし、私たちは次期フライトのクルーとして、我々のやるべき任務に集中するように努めました。そして今や、どんなチャレンジや変更に直面しようとも対応できる準備ができています。我々がやらなければならないこと、Return to Flightのためにできることのみに集中して訓練時間を費やしてきたのですから。」

インタビューの最後には、NASA職員、JAXA職員、子供たちへのメッセージとして、「我々クルーは、Return to Flightに向けた皆さんの尽力に感謝しています。宇宙は我々の未来です。エージェンシーとして、国際パートナーとして、飛行再会、そしてISSの建設を実現させましょう。それが未来への任務なのだから。」と締めくくりました。



問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/> Eメール kibo-koho@jaxa.jp

※「ISS・きぼう ウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本 ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。

